

# 改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 4月号 (NO84)

2017年4月10日(月)発行(毎月10日)

## 【農暦】今が一番、農作業が楽しい時である！

○菜園仲間的那須の家で懇親の会（ピッコロファームの会）が行われた。援農作業の後に懇親の酒宴を行った。農作業を終え、硫黄臭を強く感じながら温泉に入った。疲れる程働いた訳ではないが、身体が癒されるような気がした。温まった身体には酒宴が待ちどうしく感じた。ビールが飲みたいと感じた。冷たい空気が心持よかった。温泉の近くからは、痛ましい高校生の雪崩遭難を起こした茶臼岳が深い霧の切れ間からくっきりと見えた。谷筋に厚い帯状に伸びた雪が確認された。救急車やマスコミなど多くの車で異常な喧噪の空気に包まれたであろう道もいつもと変わらないものになっていた。美酒に酔いながら菜園のことから時事のこと、生活の事などに話題が広がった。Kさんが今一番人気だという特別な日本酒（注1）を持ってきてくれた。ワインに近いフルーティな美酒が酒宴を濃いものにしてくれた。早い時間に始めた酒宴がいつの間にか深夜近くなっていた。

○スナックエンドウ豆のネット張、サラダ菜、辛み大根、ニンジンなどの種まきをした。食用菊のモッテノホカの移植などをした。帰りには必要な分のタネを分け合った。そして恒例のなつて来ているペニーレインで朝食をとり散会した。今の時期はいつも、あれもこれも蒔きたい植えたいになり自重しているのであるが、援農で刺激されたのか、いろいろの種が欲しくなってしまった。じゃが芋は1畝と思っていたのだが種芋の余りがあり3畝植えたところである。美味しい極小の茄子があり、苗を入手できたら分けてあげると言われると少量で良いからとお願いしている。良いことなのだが“選択と集中”の方針が怪しくならないようにしたい。

○晴れの日イベントや用事あり、雨の日には予定がないが、断捨離で家の中の整理をすればよいのだが気乗りがしない。こんなずぼらな生活になってしまっているのだが、小間切れ時間や晴れ間の機会を使って、耕起を繰り返すなど菜園の整理を進めている。トラクター耕起も数回に分けて行う。耕運機では、こまめに除草を主眼にした耕起を繰り返して



＜オイヌノフグリ＞スカイブルーが美しい、この花が好きだ。名前の意味が凄。命名者を恨む。大堀川の辺に。4日撮影

いる。残っていたキュウイの剪定もした。画期的には望めないが栽培の質を向上させたいと思っている。これから那須で分けてもらったインゲン豆、人参、ほうれん草などの種を蒔きたい。トマト、茄子、ピーマンなど植えたい。今が一番、農作業が楽しい時である。除草の事を考えながら進めたい。

#### 注1；日本酒“瀬祭”は

“日本酒の最高峰「瀬祭(だっさい)」を醸造する旭酒造(山口県岩国)は、常においしい酒・楽しむ酒を目指しています。最高の酒米といわれる山田錦を50%まで磨いて醸した純米大吟醸。きれいで新鮮な味と柔らかで繊細な香りが絶妙なバランスを保っています。とある。瀬祭の意味は、カワウソが自分のとった魚を並べること。人が物を供えて先祖を祭るのに似ているところからいう。瀬祭魚。おそまつり。うそまつり。

#### 【楽農】じゃが芋の植込みなど！

<畑A>；キュウイの剪定、

じゃが芋の植込み

耕起(継続)。除草。

<ハウス>；片付け

<畑B>；トラクター耕起(数回に亘り)



#### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他；OB(なごやか)会(28日)OB会(3日)  
共生つばさの会(6日)川柳の会(6日)ピッコロファ  
ーム例会(8-9日)に参加など。

<咲始めた桜>風が冷たい大堀川で。この桜も冷雨で散る！  
28日撮影

#### 【つぶやき=Tweet】快樂が味わえる人生に！

○てんとう虫4(UKカードマガジン)に白髪交じりの一見奇抜なパーマヘアの落合恵子の写真が一頁を使って載っていた。“この人に聞きたい”シリーズの4月号の記事である。オーガニックコットン製だと云う全身黒の装いで、スニーカーを履いている。とても同世代には見えない。“私のモットーは『アンチ・アンチエイジング』。歳を重ねるのはとても素敵で、自分の欲望に振り回されなくて済む快樂が味わえる(笑)。これほど自分の掌で実感できる『豊かさ』はない気がします”と最後に書かれていた。土楽たよりの3月号に、サムエル・ウルマンの「青春の詩」について書いたばかりで、アンチ・アンチエイジングの文言が気になったので読んだ。



<市民菜園>入念な栽培が見取れる！駅ホームから。3日撮影

○小見出しのところには、“かつて深夜のラジオから流れる甘い美声で若者を魅了した。”  
アイドル “の虚像からはるかなる時間。昨今の新聞やテレビで目にするのは、国会前の抗議デモや沖縄基地問題で異議を唱える信義の姿。絵本を底に据えた真のイノセントな人。

“と紹介されていた。イノセントな人とは「潔白な・純潔な・無邪気な・無垢」な人のことである。落合恵子と言え、レモンちゃんの愛称や、クレヨンハウスを思い出すので” 潔白な・無垢な人のイメージに合っているように思える。「これほど「アンチ」を掲げて、よく生き残れたなと思います」と本人が言っているが、時代に流されず、権力に媚びずに生きて来た人である。シングルマザーや性暴力、フェミニズムなどに取り組み、認知症の母親の介護を7年している。写真の笑顔は私のモットーはからの言葉のまま、歳を重ねた人生の「豊かさ」が見えてくる。同じ時代を生きて来た者として自分が恥ずかしくなる。

○サムエル・ウルマンの「青春の詩」ではないが、心が老いたら終わりである。”歳を重ねるのはとても素敵で、、、、快樂が味わえる” でいきたいものである。アンチを掲げてよく生き残れたと言われているが、格差社会が進展し、弱者には益々生きずらい社会になって来ている。言葉使いに注意

しなくては行けないが、周りを見てもまともな家庭がない。貧しくても昭和の時代の方が生き生きしていたような気がする。富者の贅沢な生活を見ながらの貧者の生活は辛い。貧者が見えずらいというが見える部分は同じに見せたいが人の心情である。子供のいる家庭では尚更である。「子供食堂」が最近話題になっているが、貧者が見えるようになったら、生きることが困難な飢餓状態にあると云う事である。「老人漂流」という番組を少し前になるがやっていた。他人事でないと思った。

○平和ボケという言葉とともに右傾化が進み、戦争が出来る国になりつつある。IS が問題になっているが IS が生まれる遠因を作ったのは大量兵器を持っているとイラクのフセイン政権を殺戮したアメリカのブッシュ政権である。正義の戦争はない。核戦争は人類の死を意味する。世界の指導者は平和的方法で収束に当たって欲しい。戦禍で傷ついた人をこれ以上増やして欲しくない。子供姿は辛い。今また戦前と同じような社会状況が意識的に作られている。力は無くてもアンチと叫びたくなる。またも最後は重いものに。

【後記】桜が満開、緑を濃くした畦道に、  
笠間に、kogure 農場にお越し下さい。

HP のアドレスは右記に。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜那須 PENNY. LANE の壁に＞ピッコロファーム例会の翌朝、恒例のモーニングセットを。9日撮影

発行者；kogure農場・小暮虎雄  
住所；笠間市本戸4201-10  
携帯電話；090-9333-4135  
メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)  
HP；<http://ayaharu.my.cocacn.jp>